

デジタル空間における情報流通に係る制度ワーキンググループ
2025年5月29日

情報流通の諸課題をめぐる個人の意識

静岡大学学術院情報学領域 高口鉄平

※ 本資料の内容は、JST-RISTEX『情報社会における社会的側面からのトラスト形成』『可視化によるトラスト形成:パーソナライズされたデジタル情報空間のリテラシー教育』および静岡大学『高柳記念未来技術創造基金支援事業』『AI時代のデータ利活用に資する制度研究拠点形成事業』による調査研究の一部である。

はじめに

- 現在の情報流通の仕組み，また，情報流通における課題や対策などについて，個人（サービス利用者）がどのように捉え，考えているかについて調査を実施.

- 調査の概要

- 方法：日本全国を対象としたインターネット調査
- 調査時期：2025年5月
- 回収数：2158サンプル
- 割付：年代（20代以下・30代・40代・50代・60代以上）および性別（男女）による10セグメントについて，令和2年国勢調査における15歳～79歳の分布に基づきサンプル数を割付.

	実数	%
	2158	100.0
男性	1077	49.9
女性	1081	50.1

	実数	%
	2158	100.0
20代以下	348	16.1
30代	320	14.8
40代	404	18.7
50代	373	17.3
60代以上	713	33.0

- 以降の構成

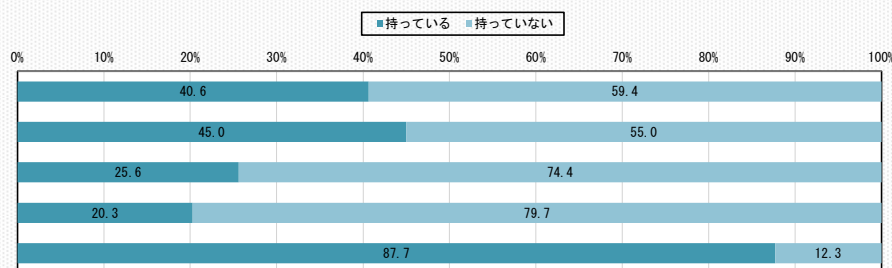
- ✓ SNS等の利用状況
- ✓ 情報空間の偽・誤情報に対する課題感
- ✓ プラットフォーム事業者が提供するサービスの仕組みへの理解
- ✓ 考えられる対策への受容性（レコメンダシステム，警告表示）

SNS等の利用状況

- LINEおよびYouTubeは多くが日常的に利用，XおよびInstagramも4割程度がアカウント所有，また日常的に利用という状況。

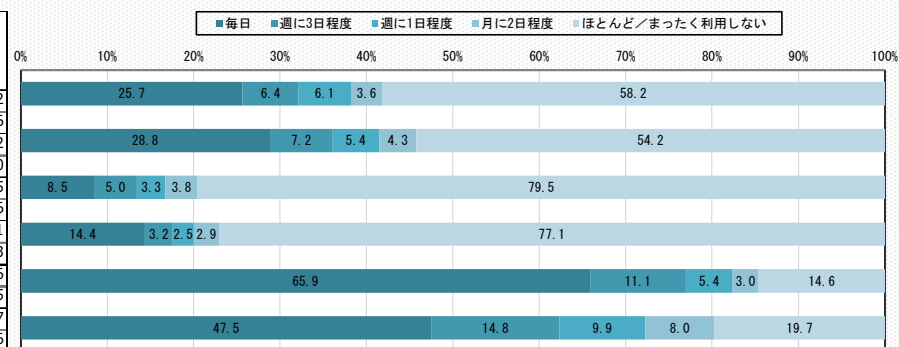
・アカウントの有無

		全体	持っている	持っていない
X (Twitter)	%	100.0	40.6	59.4
	実数	2158	877	1281
Instagram	%	100.0	45.0	55.0
	実数	2158	971	1187
Facebook	%	100.0	25.6	74.4
	実数	2158	553	1605
TikTok	%	100.0	20.3	79.7
	実数	2158	438	1720
LINE	%	100.0	87.7	12.3
	実数	2158	1893	265



・利用頻度（アカウントの有無を問わない利用（閲覧）の頻度）

		全体	毎日	週に3日程度	週に1日程度	月に2日程度	ほとんど／まったく利用しない
X (Twitter)	%	100.0	25.7	6.4	6.1	3.6	58.2
	実数	2158	554	139	132	77	1256
Instagram	%	100.0	28.8	7.2	5.4	4.3	54.2
	実数	2158	622	156	117	93	1170
Facebook	%	100.0	8.5	5.0	3.3	3.8	79.5
	実数	2158	183	107	71	81	1716
TikTok	%	100.0	14.4	3.2	2.5	2.9	77.1
	実数	2158	310	69	53	63	1663
LINE	%	100.0	65.9	11.1	5.4	3.0	14.6
	実数	2158	1422	239	117	65	315
YouTube	%	100.0	47.5	14.8	9.9	8.0	19.7
	実数	2158	1026	319	214	173	426

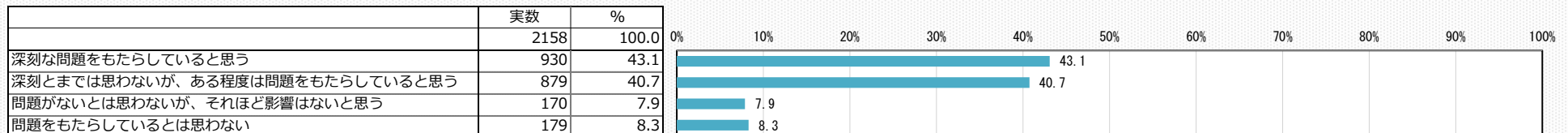


情報空間の偽・誤情報に対する課題感

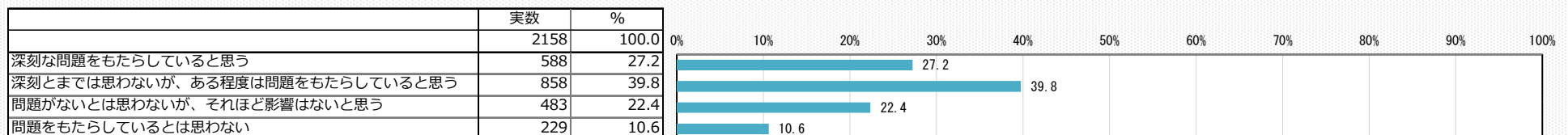
- 情報空間上の偽・誤情報に対して、多くの個人が一定以上の問題をもたらしていると認識。とくに、社会への影響を問題と捉える個人が多い。

“あなたは、SNSなどをはじめとしたインターネット上のその情報や誤りが含まれた情報、また違法とは言えないものの有害と判断されるような情報について、どの程度問題をもたらしていると思いますか？”

・「社会の動向」への影響



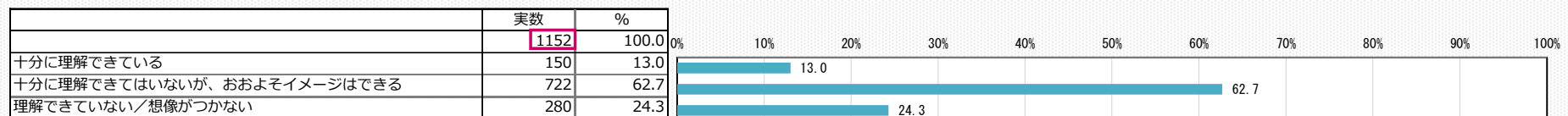
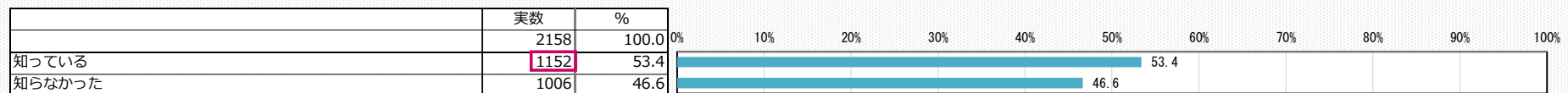
・「自分自身の判断や行動」への影響



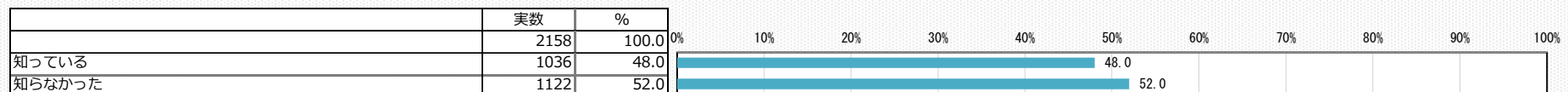
プラットフォーム事業者が提供するサービスの仕組みへの理解

- プラットフォーム事業者が提供するSNSや動画サイト等のサービスについて、その提供の方法（仕組み、構造）については必ずしも広く理解されているわけではない。

“あなたは、多くのSNSや動画サイトなどが、あなたの履歴などをもとにあなたの好みに合ったコンテンツ（投稿や動画など）を提案・表示する「 Recommend 」機能を取り入れていることを知っていますか？”



“あなたは、SNSなどのアカウントによっては、そのアカウントが投稿するコンテンツに対する利用者の閲覧数や「いいね」などの数に応じて、SNSを運営する事業者がそのアカウントに報酬を支払う仕組みが導入されている場合があることを知っていますか？”

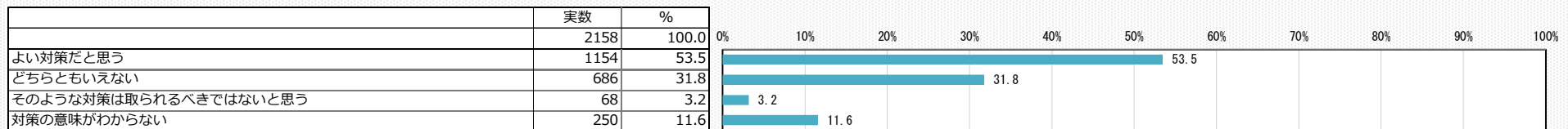


考えられる対策への受容性①：レコメンダシステム（平易な説明）

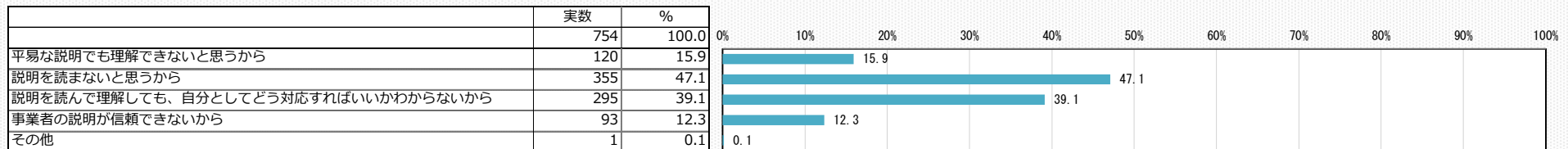
- レコメンドに関する機能を平易に説明する対策については、**約5割**がよい対策と評価。
- 積極的な支持を示さない理由としては、**説明を読まない**と思うからというものがもっとも多く、**理解しても対応がわからない**とするものも4割程度。

→説明の平易さに**止まらず**，説明の**表示の仕方**，**サービス利用者が取りうる対応**
についてのサポートがなどが工夫されれば，さらに受容される可能性。

“（※レコメンド機能について説明をしたうえで）あなたは、事業者の「レコメンド」機能について、「それがどのような仕組みなのかを利用規約などで平易に説明する」、という対策をとることについてどう思いますか？”



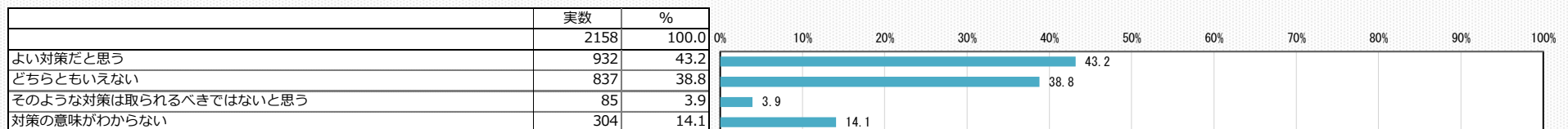
・どちらともいえない／そのような対策はとられるべきではない，と思う理由



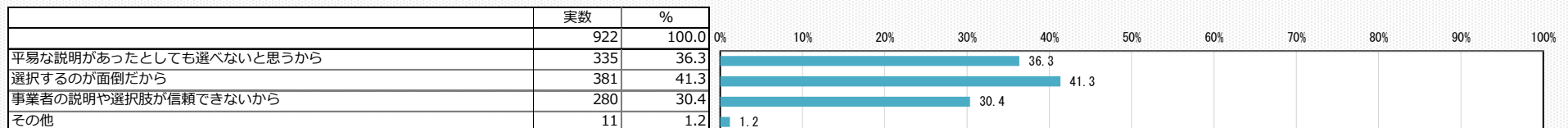
考えられる対策への受容性②：レコメンダシステム（選択肢の提示）

- レコメンドに関する選択肢を提示する対策については、よい対策と評価したのは約4割。
- 積極的な支持を示さない理由としては、自分には選択できない、選択が面倒といったものがそれぞれ4割程度。
- （少なくとも個人の認識としては）現状では選択肢を提示されても一定層で選択困難。

“あなたは、事業者の「レコメンド」機能について、「複数のレコメンドの方法から自分の好みのレコメンド方法を選択できるようにする」、という対策をとることについてどう思いますか？”



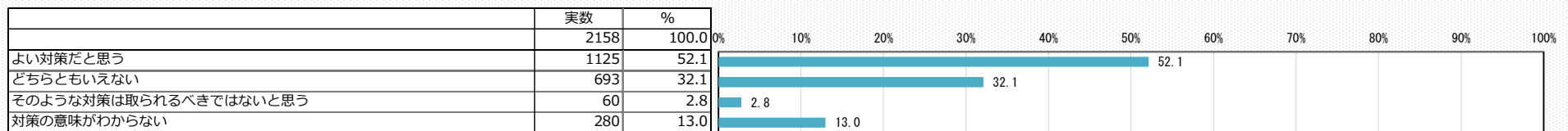
- ・どちらともいえない／そのような対策はとられるべきではない、と思う理由



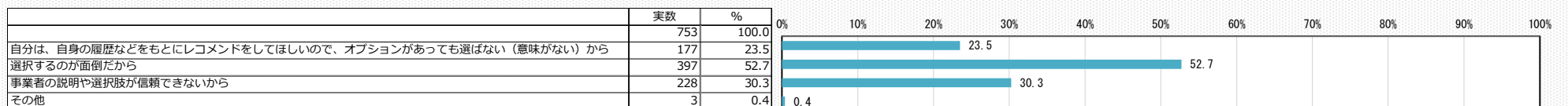
考えられる対策への受容性③：レコメンダシステム（プロファイリングによらない選択肢）

- レコメンドに関して、プロファイリングを用いないオプションの選択肢を提示する対策については、**約5割**がよい対策と評価。
- 積極的な支持を示さない理由としては、選択が面倒といったものが5割程度。
→単純な選択肢の提示よりも、**選択肢の中にプロファイリングによらないものを含めると、よい対策とする割合が約9ポイント増加。**

“あなたは、事業者の「レコメンド」機能について、「あなたのこれまでの履歴などをもとに好みに合ったコンテンツを提案（レコメンド）しない仕組みも、選びたい人はオプションとして選べるようにする」，という対策をとることについてどう思いますか？”



- どちらともいえない／そのような対策はとられるべきではない，と思う理由

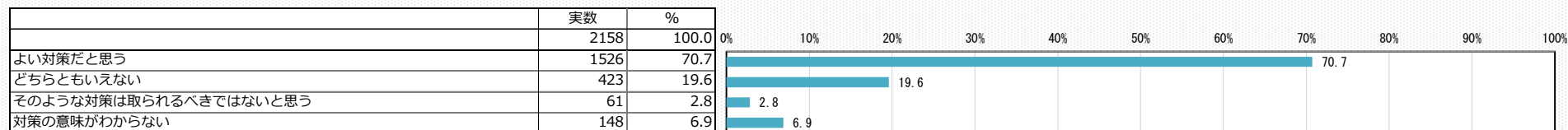


考えられる対策への受容性④：警告表示

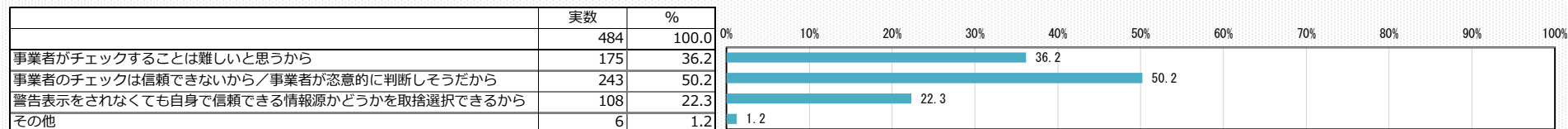
- 警告表示については、**約7割**が評価。
- 積極的な支持を示さない理由として、事業者の**信頼**や（主観としての）チェックの困難
→警告を表示する**仕組みの透明性**等が担保されれば、さらに広く受容される可能性。

※ なお、設問では、現在事業者が利用規約に違反するコンテンツを削除したり、利用規約の違反を繰り返すアカウントを一定期間停止したりするなどの取り組みを行っていることを明記。そのうえで、各対策について質問。次ページ以降同様。

“あなたは、事業者が利用者にコンテンツを提供するときに、事業者がチェックを行い、「不適切なコンテンツや、これまでに不適切なコンテンツを投稿したアカウントが提供するコンテンツには警告表示をつける」、といった対策をとることについてどう思いますか？”



- どちらともいえない／そのような対策はとられるべきではない、と思う理由



まとめ

- 現在の情報空間における偽・誤情報について、多くの個人が社会の動向や個人の判断などに問題をもたらしていると認識。
 - 個人としても何らかの対策へのニーズ
- サービス設計レイヤーでプラットフォーム事業者が取りうる対策について、
 - レコメンダシステムについては、一定の受容性が見込まれる対策であるが、システムの在り方を工夫することで、さらに利用される対策となる可能性。
 - 平易な説明については、利用者の読む負担を減らす工夫や、説明を読んだうえで利用者取りうる対応の提示などにより、利用者が説明を読むインセンティブを高めることが有効。
 - 選択肢の提示については、選択の面倒の軽減とともに、プロファイリングを用いない選択肢を用意することが有効。
 - いずれにしても、“有効であっても使われない対策”とならないことが重要。
 - 警告表示については、広く受容される対策といえるが、警告を表示する主体となるプラットフォーム事業者に対する、信頼や実行性への懸念を解決することでさらなる受容につながる可能性。
 - 表示の仕組みや警告対象の選定についての透明性、理解される説明などが有効。

ありがとうございました